

技術で幸福を追求

「マイダスイティ」の 構造家・加藤元樹

朝倉幸子◎TH-1

illustration:Taco

■設計に没頭した

加藤元樹さんは、千葉県野田市で鉄骨会社を営む家に1972年に生まれた。「製図板」の時代。今では懐かしい鉄板敷きの原寸場があった。そこでローラースケートをしたのが思い出という環境で育った。芝浦工業大学柏高等学校から東京理科大学理工学部、大学院は東京工業大学へ進んだのは自然の流れだった。とはいっても、建築といえば意匠設計しかイメージできなかった。構造というものがあるのも知らない普通の学生。それが「シェル構造に惹かれ、大空間にはまった」。当時の多くの建築青年が影響を受けたと同様に「国立代々木競技場」の存在があるのだ。加藤さんはシェル構造を極めたいので、大学院は元結正次郎先生に教を乞うことにした。建築も論文の構成も独自の綺麗さを求める先生の元で、シェル構造の研究に明け暮れる。

■KKS・JSD・SDG

卒業後は、長谷川一美さん（本コラム82回）主宰のKKSに入る。構造を面白く語るので惹かれたという。5年経過した頃に徐光さん（本コラム57回）主宰のJSDに合流してさらに5年のキャリアを積む。仕事量はおそろしく多い構造家たちである。加藤さんはこの間で100件以上の建築に携わる。自宅に帰るのは週に一度で、仕事に没頭した。徐光さんには人間的な魅力に惹かれ、構造設計だけでなく人生の師と仰ぐ。

二人の構造家ともに構造設計集団〈SDG〉の出身。日本の構造界の中軸を成した横山不学、木村俊彦先生から薫陶を受けた主宰の渡辺邦夫さん（本コラム78回）は今活躍する構造家を多数生み出している大構造家なのは皆が知る。孫弟子の加藤元樹さんにも、その構造設計の精神はつながっているのです。

■プログラムもデザインだ

李亮雨CEOが率いる韓国の企業、マイダスイティがある。建築では構造設計、汎用構造解析、CADを連携したソフトウェアを提供する会社がマイダスである。加藤さんは、日本法人マイダスイティジャパンの解析エンジニアリング部チームリーダーとして、新部門を担っている。

SDGに縁があったマイダス。大学院時代の友達がいって「日本で起こすから」と誘われる。一人で構造設計をしていた頃だったから最初は手伝い程度。が、構造設計のツールも面白くあるべきであり、「プログラムの開発も構造設計と同じようにデザインする楽しさがあると」考えるようになり入社を決める。早くも10年になるが、「ストレスフリーで構造を楽しんでいます」。マイダスの李CEOは鉄鋼会社で技術者として働いてから起業したという、求心力のあるカリスマ性を持つ魅力的な経営者なのである。トップの魅力も決断の大きな要因だったという。

会社案内は、建築構造のソフトのeGen、iGenなどの商品の説明より実績を写真で見せる「情熱 希望 幸福 名誉 改革者 先駆者 世界の幸せ 幸せの生産工場 情熱 共益 実行 分かち合い」などの言葉が心に響く。建設分野のCAE・SW市場シェア世界1位で、個々の技術能力を存分に発揮し、皆が仕事の喜びを感じている組織。会社主宰のイベントも沢山の、「マラソンにハマっています…」趣味がなかった加藤さんが嬉しそうにいう。元来ハマる人なのです。

